

第5回アンコールカップ開催



2015年12月13日 アンコールカップ リード(CCF)の部とオープン(トップロープ)の部を開催しました

オープン(トップロープ)男子の表彰式です。今回は4つのアンコールカップのうち1つがラオスに渡りました。ラオス・バンビエンでアダムクライミングスクールを主宰するアダムことサントンニッサルト氏(左から2人目)が連れてきた二人の生徒のうちの一人カムさんが優勝。それを予想していたかのように、表彰台で国旗を披露しました。2、3位はカンボジア人ですが、アメリカの支援を受けているNGO「PEPY」からの参加でした。今回もいろいろな国からのボランティアに支えられ、5回目の大会を開くことができました。

お知らせ 多摩地区各地で6月より、真如苑助成カンボジア・ユースクライマー支援プロジェクト報告会・上映会

「カンボジアへ登りに来ませんか？」を開催します。第1回は東急田園都市線の南町田

6月25日(土)14:00～15:30 (出入自由・無料) モンベルグランベリーモール店内サロン

http://store.montbell.jp/search/shopinfo/indoor/?shop_no=679975

第2回以降は決まり次第お知らせします。

ACN第3回定期総会 今年は **8月27日(土) 17時～** ハヶ岳山麓 甲斐大泉「かりん別荘」にて



オープン女子↑ リード(CCF)女子↑ リード男子は、日本研修経験者二人をおさえて高校生のバランが優勝↑

リザルト

エントリークラス	性別	年齢	クラス	クラス参加人数	クラス別順位	入賞者氏名	年齢	総合
CCF	M	12-14	CCF - M1	6	1	Huy Yanfai	12	
					2	Huy Yanfei	14	
					3	Sambath Pheaktra	14	
	M	Over 15	CCF - M2	8	1	Huy Barang	17	1 st
					2	Sor Seyha	20	
					3	Cho Channy	20	
	F	Over 15	CCF - F2	5	1	Loeum Vann	19	1 st
					2	In Theavy	20	
					3	Phin Sarom	19	
OPEN	M	Over 15	OP - A - M	7	1	Kham Vangleng	23	1 st
					2	Nhoeun Sakkra	20	
					3	Mak Khuy	21	
	F	12 - 14+over15	OP - A - F	13	1	Sek Sreydet	13	1 st
					2	Thoan Sothida	19	
					3	By Dina	20	
Total				39				

女性のためのボルダリングクリニック 12月19日(土)

10月はじめにニューヨークの Bouldering babes という「クライミングにより女性のエンパワーメントをめざす団体」の Ms. Jeanne Fu から ACN へて、彼女たちのワールドツアー計画に参加しないかという誘いがありました。ウェブサイトを見るとコロラド、シカゴ等アメリカ国内数か所のジムをはじめ、ギリシアのアテネ、ヨルダンのアンマン、オーストラリアのシドニー、ニュージーランドのオークランド等を回る計画の中に、カンボジア・シェムリアップのアンコールウォールがすでにリストアップされていました。その計画のままでは、こちらが計画中の、むしろ男子のほうが多い20日(日)のボルダリングコンペと重なってしまうため、一日前に実施日をずらしてもらいました。さらに参加費を徴収する計画のところを、カンボジアは国民一人あたりの所得がアメリカの 1/60 しかない国であることを説明して、以下のように広告することを了承してもらいました。



当日は、講師は Jeanne さん 1 名、受講者はカンボジア人 6 名(うち 1 名は男子、1 名は受講生の学校の英語教師)のみの参加となりました。参加者は皆、翌日のボルダリングコンペに参加希望したので、女子に対する動機づけの効果はあったようです。土曜でも学校の授業とは重なるので、今後このような行事を行う場合には、日曜日にする必要があります。



アンコールカップ ボルダリングの部 12月20日(日)



ふだんは、子供たちが来ると、大にぎわいになるボルダリング壁ですが、この日はなぜか参加者が少なかったですね。それもあって、今までご寄贈いただいた賞品を並べて、順位が上の生徒から、ほしいものを順にとり、参加者皆がいただくことができました。



リザルト	性別	クラス参加人数	クラス別順位	入賞者氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男子1位のバランでも、4つしかゴールに到達できませんでした。作者の若江さんから、1年かけて解決するよう、メッセージをもらいました。	M	7	1	Huy Barang	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×
			2	Huy Yanfei	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
			3	Sambath Pheaktra	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	F	4	1	Soeng Chhan	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
			2	Sek Sreydet	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
			3	Bo Vannet	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Total	11												

10月3週目に対象校あて、招待状を配布しましたが、今年度は3km以上の遠方からの参加は1校のみでした。「参加希望者は、参加申請書、同意書を当日までに提出する。18歳未満は、保護者の同意必須」となっていたましたが、現状では、12歳未満の小学生に保護者が付き添ったり、12歳以上については保護者の同意書を求めたりということが徹底できていません。実際には引率教師が親代わりとなっています。「書類にサイン」ということに極端な抵抗を示したり、特に女子についてはスポーツ活動より家の手伝いを求めたりするという保護者の傾向があります。それでも5年前よりは、その困難さは減っていますから、次回はさらに根気よく、保護者の理解を求めていきたいところです。

ワークショップ参加生徒

月	日	曜	クルス小中学校	ダップマカラ高校	その他の小中学校	計
11	1	日	9	1	0	10
	8	日	7	1	0	8
	9	月・祝	8	2	2	12
	14	土	38	0	0	38
	15	日	26	0	0	26
	21	土	3	1	0	4
	29	日	8	0	0	8
12	6	日	7	0	2	9
合計			106	5	4	115

今年度は、ワークショップ参加者のほとんどが、近隣の子どもたちでした。招待した市内対象30校中参加者があったのは上記の6校のみで、昨年度より学校数が減っています。



また、近隣のクルス小中学校の生徒たちも、大勢が参加した翌週が水祭り休暇と重なり、続けられなかったようでした。以前に毎週このウォール前で練習していたシェムリアプ柔道クラブが、韓国の教会に移動したことも、新規参加者が減った要因でもあります。底辺拡大が今後の課題です。
←11月のワークショップから

御礼 今年も、いろいろな国々の方に応援していただき、シェムリアプユースクライミングフェスティバル（アンコールカップと事前練習会等の総称）を行うことができました。ありがとうございます。20回を数える有森裕子さんの「アンコールワットハーフマラソン」には及びませんが、ともかく5年間継続できたのは、支えてくださる皆さんのおかげです。アンコールワットマラソンの運営はすでにカンボジア人に移行しており、ACNの生徒たちもその給水ボランティアに例年参加してきました。そしてマラソンの翌週がアンコールカップという12月の年中行事が定着してきています。

今年も首都プノンペンから、アメリカ人のマリーがかけつけ例年通り丁寧に面倒を見てくれました。調布柴崎のジムハングアウトから初参加のボランティア池口さんは開会式でデモクライミング、受付選手案内には日本から佐藤さん、バタンバンからデビー、ビレイはアダム、アップル、マリー、若江、池口、メサ他が交代で受け持ちました。CCF代表のシレイディ氏（p1写真右端）は表彰にかけつけ激励してくれました。（彼は年末で教育局長を定年退職、CCFのほうも新年より名誉代表となり、新代表は州体育課長のチョウン・ソクバンディ氏 p6写真前列右から3人目に交代しています）通訳のヒアさんは、忙しい中で初回からずっと欠かさず協力、警察、医療スタッフも一日中見守ってくれました。シェムリアプ在住の濱口さん、高嶋さん、森さんも撮影に来てくださいました。ニューヨークのジーンさんも講習料なしとわかってもらって参加者が少なくてもちゃんと約束通り丁寧に教えてくださいました。会員は、代表浅井、理事有泉、高木、専門家ボランティア福神、そしてなんとと言っても今回は、愛媛松山の新しいクライミングジム「ブレイブ」の若江さん夫妻の長男敢太くんが、お父さんのルートセット中に誕生したことをお伝えしたいと思います。出産予定日直前にカンボジアに渡航し、例年がない暑さの中での作業は、ご本人も大変でしたが、それを支えてくださったご家族の皆様に感謝したいと思います。

●シェムリアプ・ユース・クライミング・フェスティバル 2015 は、下記のみなさまから、格別のご協力をいただきました。お礼申し上げます。（順不同）（株）モンベル様、ロストアロー（株）様、クライミングジム・ビッグロック様、佐久平ロッククライミングセンター様、クライミングセンター・アートウォール様、山と溪谷社様、日本山岳協会様、日本勤労者山岳連盟様、ピラミッドジャパン様、パウダーガイド社様、小さな美術スクール様、モロツポカカフェ様、チャイアンコール様、ピースインツアーアンコール様、ブルーミングツアー様、クロマージュ様、ローユーユー様、ザシティプレミアムゲストハウス様、アナコットカンボジア様、プノンクライムコミュニティジム様、アントレ・プリーズ（アジア）様、アダムクライミングスクール様、クライミングベイブスラントゥーザワールド様、カンボジア・オリンピック委員会様、シェムリアプ州教育青年スポーツ局様

ACN ジャパンと ACN カンボジアとの関係は？

カンボジアでは、2015 年新 NGO 法が可決されました。今のところ草の根レベルで活動している団体には、強い規制や変更が要求されていることはないようで、ニュースレター16号に載せた次のような関係は続いています。

アンコール・クライマーズ・ネット・日本

(非政府、非営利、NPO法人) 日本人スタッフで運営し
主たる活動は、ACN-CA非営利部門への運営指導、
技術指導、資金投入(寄付)

ACN-JP 法人の目的に適うイベント等に限って運営費用を支援

アンコール・クライマーズ・ネット
日本

(非営利)

・運営指導(指導員派遣、駐在)

組織運営

イベント運営

人工壁運用管理

施設管理

クラブ管理

・技術指導(指導員派遣、駐在)

インストラクター育成指導

・助成金

・クライマー奨学金支援

・現地借地代支援

・運営資金支援

・運営監査(派遣)

アンコール・クライマーズ・ネット
カンボジア

非営利部門

・普及のためのイベント実施

Workshop、競技会、その他

・インストラクター育成

・施設の保守管理

・連盟代行及び州代表の業務

・資源管理(人材、備品)

営利部門

・外国人対応のスクーリング

・人工壁運営管理

・ガイド育成

・スタッフ管理

財務会計管理

支援

以下 2015 年度後半の活動から紹介

インストラクター育成

セイハとチェニイが高校を卒業しプノンペンのジムに就職

毎年アンコールカップのプレイヤーとしてボランティア参加してくださっている、首都プノンペン在住クライマーのマリーとクリストフ夫妻が、2015 年 10 月プノンペンでまずボルダリング壁を開業、2016 年 2 月の本開業前に、ACN のセイハとチェニイが採用されました。夫妻が以前から、「自分たちのジムができたら、高校を出ても仕事のあまりない地方出身者に新たな雇用を生み出すことができる」と述べていた通りになりました。「Phnom Climb」の Facebook にはもう何度か、

彼らがビレイコースを指導する様子が載っています。

Phnom Climb Community Gym



<http://www.phnomclimb.com/>



経験豊富な夫妻の指導のもと、時にはお客さんを案内して自然の岩場へ行くこともあるようです。今後が楽しみです。



ガイド育成

ラオス研修

自然の岩場を安全にガイドできるように、この面では一歩先を行くラオス・バンビエンのアダム(p1 写真)、アダムクライミングスクール校長のもとで、3月29日～4月4日、キムスロイとバランが技術研修しました。くわしくは、次号でお伝えします。

クーレン山ハイキング

ACNの外岩クライミング発祥の地、聖山プノンクーレン東側の「チエ岩」と名付けた練習場所は、畑開墾のための大規模な山焼きによって私たちの近寄れない場所になってしまいましたが、まだまだこの聖山には多くの可能性があります。2月22日、今回は山の西側に行きました。キムスロイの7歳の長男から、戦中疎開児童組の榎沢理事まで総勢13人が往復16kmのハイキングを楽しみました。



Cambodia
Climbing
Federation

カンボジア
クライミング連盟

連盟代行 カンボジア国内の競技組織を育てる



クライミングは2020年東京オリンピック追加種目の有力候補です。日本からは、国際レベルの選手がたくさん出ています。ACNが日本研修でお世話になっている日本山岳協会(JMA)が、日本の国際登録団体です。JMAは下のような100ページ近くある国際競技規則を和訳もしてくれています。日本選手はまずJMAに登録をし、JMAが国際クライミング連盟に選手登録をします。

さて、もしカンボジアの選手が力をつけて国際試合に出るとしたら、カンボジアでJMAの役割をするのがCCFです。左は最近2期目がスタートしたCCF役員と二人の選手代表です。4月4日に



国内の全競技連盟が首相により首都のオリンピックスタジアムに招集されたときの写真です。

とはいえ、出張旅費は出ないので、ACNはシェムリアップからプノンペンへの派遣費用を負担しました。各連盟には、スポンサーを探すことも求められています。CCF事務局長であるわがACNのスムロン先生は、「サッカー連盟やバレーボール連盟のようにスポンサーを探してこいといわれても、、、」と頭をかかえています。心当たりのある方は、ACN事務局または理事までご連絡ください。

施設の保守管理

キムスロイが昨年の研修を生かし、教育用施設を州スタジアム敷地内に新設



シェムリアップ市中心部から東へ約5kmのところの州スタジアム(陸上競技場と体育館)があります。中心から西に3kmのアンコールウォールと、シェムリアップ川をはさんでちょうど反対側です。この敷地内のテコンドー場脇に、ボルダリング壁の建設をはじめました。くわしくは、次号で

・カンボジア・ユースクライマー支援プロジェクト報告会・上映会に、今年も真如苑の助成決定

昨年度は、「カンボジアユースクライミング研修2015@日本」プロジェクトに対し、真如苑から30万円の助成金をいただきました。おかげで、チェニイとキムスロイの日本研修が実施できたことは、ニューズレター17号でお知らせした通りです。

今年度は、この昨年の研修と、本号掲載の第5回アンコールカップの様子を紹介する「報告会・上映会」を計画し、それに対して、再び真如苑から「多摩地域市民活動公募助成」事業として10万円の助成金をいただきました。この報告会・上映会では、支援していただいた皆さんにまず感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

また、私たちの活動をよく知っていただき、さらに「カンボジアの子どもたちにクライミングを教えたい」「カンボジアの岩場を登ってみたい」「カンボジアで、ハイキングをしてみたい」などなど、一度現地で Angkor Climbers Net Cambodia の大人や子供と交流しに渡航してくださる方が増えていくように、呼びかけたいと思います。p1にお知らせした第一回の南町田モンベルグランベリーモール店内サロン会場だけが現在決まっています。二回目以降の会場として、公民館等良い場所をご存じの方は、ぜひ事務局または理事のほうまでお知らせください。右のようなチラシをつくり、裏面に日時・案内地図等を印刷してお配りする予定です。



・NPO法人としての会員は現在41名、会員として継続的な支援をお願いします

ACNへ入会をご希望の方は、随時下記宛て、郵送、メール、電話、Faxのいずれかでお知らせください。一般個人会員の年会費は¥5,000です。事業年度(7/1～翌年6/30まで)に対応して納入をお願いしています。みなさまの支えがカンボジアの青少年の、健全な成長を継続する確実な助けになります。

■特定非営利活動法人アンコール・クライマーズ・ネット（日本事務局）

〒182-0025 東京都調布市多摩川 5-3-1-506

tel. & fax +81-(0) 42-498-2488 Email: info@angkorclimbers.net

・寄付・寄贈

一 寄付金、寄贈品等

2008年にNGOとしてスタートしてから **2016/4/30 現在までの**、寄付金累積総額は、**¥ 8,031,633+ US\$13,660** となりました。

また、里親基金累計総額は、**¥3,220,000 +US\$1,250** です。大変ありがとうございました。

2015年11月～2016年4月までに、ご寄付、ご寄贈、里親出資いただいた方は下記の通りです。なお、本お知らせは、ニューズレターと連携して対応する期間に寄付された方のお名前だけを本誌にて、順次お知らせしています。

一助成金 真如苑様

一 寄付

浅田信一郎様、川尻洋太郎様、吉富明様、堀田圭子様、安田様野草茶かりんの皆様、チャイアンコール様、ピースインツアーアンコール様、ブルーミングツアー様、林武子様、杉下久美子様

一寄贈 ※寄贈及び奉仕活動をもってご支援いただいた方も含みます。

日本山岳協会様、(株)モンベル様、ロストアロー(株)様、クライミングジム・ビッグロック様、佐久平ロッククライミングセンター様、ピラミッドジャパン様、小さな美術スクール・ヒア様、モロッポーカフェ様、クロマージュ様、ローユーユー様、ザシティプレミアムゲストハウス様、アナコットカンボジア様、プノンクライムコミュニティジム・マリール様、アダムクライミングスクール・アダム様、クライミングベイブスラントゥーザワールド・ジーン様、若江勇一様、池口真弘様、佐藤生様、高木智子様、有泉重正様、濱口秀隆様、高嶋繁生様、森修一様、福神三平・和子様、伊藤洋美様、木村まり子・良様、榊澤健治様、高木勝二・初江様、山田栄子様、清水智子様(順不同)

一里親 堀田圭子様、才原明男様、榊澤健治様、清水不二様(順不同)

★★★ 寄付及び会費専用口座 ★★★

■ゆうちょ銀行

記号 10010
番号 75286831
口座名 アンコールクライマーズネット

■三菱東京UFJ銀行

支店名：調布支店
預金種目：普通預金 口座番号：0081781
口座名：アンコールクライマーズネット

Webサイトでもご確認いただけます。
http://www.angkorclimbers.net/acn_donation.html

☆☆☆ アンコールクライマーズネット連絡先 ☆☆☆

■アンコールクライマーズネット（日本）
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506
tel. & fax +81-(0)42-498-2488

■アンコールクライマーズネット（カンボジア）

Angkor Climbers Net (ACN)

tel. +855-(0)92-336-924, +855-(0)12-1759970

・郵便住所（この宛名に上記電話番号併記で局留になります）

POBOX 93044, Siem Reap city, Siem Reap province, CAMBODIA

・人工壁所在地（郵便物の宅配は、ありません）

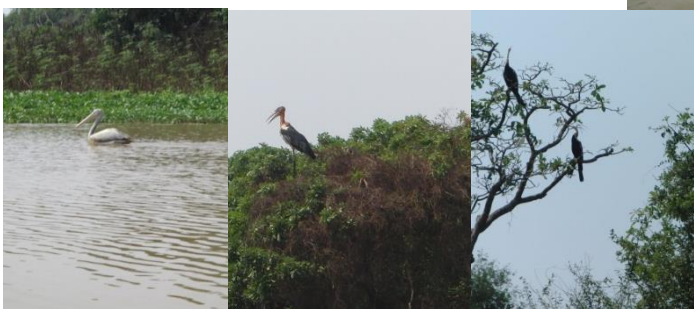
Angkor Climbing Wall Krus village, Svidoncom commune

Siem Reap city, Siem Reap province, Cambodia

■ email info@angkorclimbers.net



カンボジアの宝、ペリカンが飛ぶトンレサップ湖



水祭り、練習しに来る子供が減った、、、でもカンボジアでは水祭りはとても大切な行事です。雨季と乾季で湖の面積が10倍も違う。雨季にメコン川からからさかのぼってくる水をこの湖が貯えるから洪水が調節できるのです。その水が順行するようになる時期に水祭りをします。水上生活者も多いトンレサップ。学校も買い物も船をこいでいきます。湖のいちばん奥の、シェムリアップ州からバタンバン州に一步入ったところにこのプレクトアル自然保護区があります。

Contents

- 01 アンコールカップ 2015
 - ロープ
 - リード、トップロープ
 - ボルダリングクリニック
 - ボルダリング
 - 反省 御礼
- 05 ACN日本とACNカンボジア
 - インストラクター育成
 - ガイド育成
 - 連盟(CCF)代行
 - 施設保守管理
- 07 From ACN's Desk 事務局から
 - 報告会・上映会
 - ACNの会員制度
 - 寄付・寄贈について

Editor's note

有森裕子さんのアンコールワットハーフマラソンが、すでにカンボジア人運営になっているとお伝えしました。そして、先日、「NHK スペシャル」がアンコールワットワットだというのでテレビをつけ、きっとまた上智大学元学長の石澤先生の解説でしようと思って見ていたら、ちがいました。カンボジア人の考古学の先生が杏さんを案内して解説していました。わがACN Japanの目標も、ACN Cambodiaのひとり立ちです。カンボジアのスムロン、キムスロイ、メサ、デビー、セイハ、チェニイ、バランたちがいつの日か、「クライミングはですね、自然や人と調和して、考えて行動する人間を育てるんですよ」なんて解説するようになったらいいな、おっと待って、評論家ってのは終わった人がやることですね。彼らはまだバリバリ現役です。(Chimi)

©禁無断転載

アンコールクライマーズネットニュースレター

2016年5月号 NO.18 2016年5月10日発行 非売品

特定非営利活動法人アンコール・クライマーズ・ネット

発行人 代表理事 浅井和英

編集人 事務局 伊藤明子

発行 アンコールクライマーズネット (Angkor Climbers Net)

〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506

tel 042-498-2488 fax 042-498-2488

www.angkorclimbers.net

facebook [angkorclimbersnet](https://www.facebook.com/angkorclimbersnet)